

a 学校教育目標	夢や目標に向かって、自ら伸びる とともに伸びる児童の育成 (校訓) 自ら伸びる とともに伸びる	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】 志を抱き、その実現に向けて考え、行動できる未来の創り手の育成 【ビジョン】 児童、教職員、保護者が「夢や目標に向かって、自ら伸びる とともに伸びる」という教育風土がある学校 ＜めざす学校像＞ 「自ら伸びる とともに伸びる」という教育風土のある学校 ＜めざす子供像＞ 「規律あるかわり合いを通して、自ら考えともに伸びようとする子供」 ＜めざす教職員像＞ 「児童を守り、育て、育む」ことを自覚し、実践できる教職員
----------	--	----------------------	--

評価計画					自己評価					改善方針		学校関係者		
c 中期経営目標	d 短期目標	e目標達成のための具体的方策(大枠)	f 評価項目	指標	令和6年2月	目標値	10月	2月	i	j	k 結果と課題の分析	n	l 評価	m
					h 達成値 (参考)		h 達成値	h 達成値	達成度	評価		改善方針	イ	ロ
確かな学力	【授業改善による学力定着】	・児童の主体的な学びにつながる「問い」「学び合い」のある授業づくり【研究部】 ・45分間の授業で、R80を活用した「振り返り」から逆算した「めあて」を設定した「わかる、できる」授業づくり ・学び方の選択肢と自己決定のある授業づくり【研究部】 ・「聞く」ことを大切にし、ねらいを達成するための「学び合い(ペアやグループによる学習)」のある授業づくり【研究部】 ・教科書の文章を「読む」ことができる授業づくり【研究部】 ・教材文等のことばに根拠を求める授業づくり【研究部】 ・学習規律の徹底し、親和性のある学習集団づくり【研究部】 【生徒指導部】 ・ねらいを達成するために、ICT機器等を活用した授業づくり【研究部】 ・実生活や実社会の課題を解決するプロジェクト型学習の充実【教務部】	単元末テスト(国語、算数、社会、理科)の学年平均値が指標に示す点を超える教科数(20教科) 【評価時期】(1学期末・2学期末)	平均値 1・2年生(90点) 3・4年生(85点) 5・6年生(80点)	15／20教科	20／20教科	15/20教科 (75%)	67%	C	・単元テストは、20教科中15教科が各学年の指標を超えている。HyperQU学習環境分析の「学習意欲」は、4学年が全国平均以上であり、昨年度より改善傾向にある。NRT学力テストは、13教科中2教科が全国平均以上であった。 ・図検定は、全校で平均正答率80%を超えている。(1年生は2学期以降実施予定) ・教職員アンケートの結果は、5項目平均は89.4%であり、おおむね指標を達成しているが、「学習者が新たな意味やアイデアを伝え合えるような対話の場面を設定しているか。」の項目の肯定的自己評価が67%と低い結果である。	・毎時間の学びの積み上げが、学力向上にかかせないために、何を学ばせるのかを明確にして授業改善を行う。また、授業の課程で、個々の学習定着状況をしっかりと把握し、個別指導を行ったり、一斉指導を行ったり、学び直しを行ったりなどに取り組み、学力の定着を図る。 ・児童が思考したり表現したりする際の視点を明確にして授業を計画するなど、主体的、対話的で深い学びを目指した授業改善を行っていく。 ・授業の中で、児童自身が「問い」や「課題」を持ってのような発問や学習内容と生活の中での出来事が結びつくような発問をすることを積み上げていく。 ・R80での振り返りを教師自身が書き、振り返りから逆算した「めあて」の設定や授業構成を考える。	○	・児童が積極的に学習に参加している姿がみられて感心しました。 ・落ち着いた環境の中で授業を受けることができるので学びに向かう力が高まってきているように思われました。授業内容、教材等工夫されていて、児童が楽しく学習している様子がみられました。 ・先生方が子供たちに確かな学力を身に付けさせようと努力していることがうかがえました。 ・学習者が新たな意見やアイデアを伝えあえるような場面を単元全体の中で取り入れることも大切だと思います。	
			NRT学力テストの平均値が全国平均以上の教科数(13教科) 【評価時期】(7月)	全国平均以上の教科数	5／13教科	13／13教科	2/13教科 (15%)							
			校内図検定(自作テスト)の平均正答率 【評価時期】(10月)	各学年の平均正答率80%以上	—	100%	5/6学年 (83%)							
			HyperQU学習環境分析の「学習意欲」 【評価時期】(5月 10月)	全学年全校平均以上	2学年	6学年	4学年 (74%)							
豊かな心と親和性の高い集団	【規範意識の育成】	児童に所属意識を持たせ、円滑な集団生活の基盤となる(規範意識・ルール・マナー等)を身に付けさせる	HyperQU「学級生活満足群」 【評価時期】(5月 10月)	学級生活満足群に位置づく児童の割合60%以上の学級数	4／8学級	8／8学級	5／9学級	86%	B	・学級生活満足群は、4年生以上で70%以上である。高学年になるに連れて、他者への意識が育ち、授業での学び合いや学級活動等で協力する場面が増えることから、学校生活への満足度へつながるのではないかと考える。 ・今年度から学ぶ場所が、校内SSR、北部ふれあい教室が設置され、児童にとっての選択肢が増えている。 ・児童質問紙によるアンケートでは、すべての項目で昨年度の数値を上回っている。「聞くこと」や「学び合い」を大切にした授業改善や仲良し班遊びなどの異学年交流などを通して、自己肯定感が高まっていると考える。一方で、「困ったことがあったとき、先生や友だちに相談できる」の項目が70%後半であり、相談できる力や風土を醸成していく必要がある。 ・いじめ事案やいじめにつながる事案については、事案発生後の対応が職員間で共通認識されており、素早く丁寧な対応ができています。	・夏季休業中に、集団づくりや特別活動の研修を行った。研修で学んだことを生かして、2学期以降に特別活動の充実に取り組んでいく。 ・定期的な不登校支援会議や生徒指導委員会、いじめ防止委員会を継続し、児童の様子や変化等について共有し、未然防止や事案発生時の指導につなげる。 ・仲良し班を後期で再編成し、仲良し班遊びを実施するなど、異学年交流の場を作る。 ・自分の思い通りにいかない、腹が立つ、困った時に暴言暴力や授業妨害が多くある状況をなくすために、学習の中で、自己決定する場面、考えや思いを伝え合う場面を意図的に設けることで、伝え合う力をつけていく。また、伝え合う場面の中で、「そういう考えもあるね」と折り合いをつけることも身に付けさせたい。 ・学期に1回の児童との面談や日常的な児童への声掛けにより、児童が先生に相談しやすい風土をつくっていく。	○	・学級生活満足度調査4年生以上7割は学校全体での取り組みの成果だと感じます。 ・全児童登校できた日があったことは、SSRの取り組みの成果だと感じました。 ・教室での学習が難しい児童にとって、学ぶ場所の選択肢が増えたことはよかったと思います。 ・聞くことや学び合いを大切にした授業改善や暴言・暴力に対して、早期発見・対応を組織的に行われていることが、親和性の高い集団作りに貢献していると思います。	
			全ての児童に学びの場がある。	所属学級、SSR、市ふれあい教室、フリースクール、リモート授業、保健室などの学びの場	—	100%	100%							
	【共感的な人間関係づくり】	児童に、他者とかかわり合う場面を与え、その中で、自己肯定感を高めさせるとともに、相手を大切にすると態度を身に付けさせる	児童質問紙によるアンケート調査(あ)「学校のきまりやルールを守って生活をしている」 (い)「自分にはよいところがある」 (う)「自分のよさを周りの人に認められていると思う」 (え)「将来の夢や目標を持っています」 (お)「努力すれば、自分もたいいのことは出来ると思います」 (か)「困ったことがあったとき、先生や友だちに相談できる」 【評価時期】(1学期末・2学期末)	児童質問紙肯定的評価の割合	84%	90%	93%	80%	D	4月、5月、6月と78%の職員が時間外在校等時間の目標を達成できなかった。5月、6月は生徒指導事案の対応で時間外在校等時間が増加した。7月は学期末で、成績等々の事務処理が多かったが、方法を早めに周知し、職員がタイムマネジメントを計画的に行えるようにしたり、子どもの下校時刻を早期作業時間をしっかりと確保したこととで、目標値を達成している職員が増えた。	・全職員が心身ともに健康で職務を遂行できる環境で子供たちと向き合うことで教育効果があがる。そのために、個々が計画的に仕事ができるように行事等を早めに周知していく。 ・引き続き成績等の事務処理が重なる繁忙期には、児童の下校時刻を早める等、勤務時間内に作業等ができる時間を積極的に確保していく。 ・1週間で、全職員が計画的に早く帰宅することができるような体制を整えて、心身ともにリフレッシュする時間を増やしていく。	○	・定時退校日を設けて、割り切った帰宅するなどの学校全体の雰囲気づくりが必要だと思います。 ・様々な業務がある中で働き方改革の取組は大変だと思います。少しずつでも改善していけるように今後も様々な取り組みをされることを期待しています。	
			(い)「自分にはよいところがある」	81%	85%	89%								
			(う)「自分のよさを周りの人に認められていると思う」	83%	95%	77%								
			(え)「将来の夢や目標を持っています」	85%	95%	93%								
			(お)「努力すれば、自分もたいいのことは出来ると思います」	93%	95%	89%								
			(か)「困ったことがあったとき、先生や友だちに相談できる」	79%	100%	78%								
			いじめ事案やいじめにつながる事案を把握し、児童と保護者、学級の児童に対応する。	—	100%	100%								
			【生涯にわたって健康づくりをしようとする健康教育の充実】 【生涯にわたって運動しようとする心身の育成につながる授業改善】	児童に確かな目標を持たせ、生涯にわたって健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現しようとする心と体を育成させる	児童質問紙よりアンケートによる調査「体育の授業は楽しい」 「おうちで決めた時刻に寝ている。」 【評価時期】(1学期末・2学期末)	肯定的評価の割合	「体育の授業」71% 「早寝」70%							「体育の授業」95% 「早寝」80%
・生活リズムを整える取組の実施(園小中連携教育)【保健安全部】 ・楽しく、運動量がある体育科の授業改善【保健安全部】 ・自分の目標に向かって挑戦することができる体育科等の授業改善【保健安全部】 ・児童同士が「見る」ことを大切にした体育科の授業改善【保健安全部】 ・自己決定の場がある体育科の授業改善【研究部】 【保健安全部】	児童質問紙よりアンケートによる調査「体育の授業は楽しい」 「おうちで決めた時刻に寝ている。」 【評価時期】(1学期末・2学期末)	肯定的評価の割合			「体育の授業」71% 「早寝」70%	「体育の授業」95% 「早寝」80%	「体育の授業」89% 「早寝」71%							
働き方改革	教育課題に適切に対応する学校体制を再構築するとともに、学校行事及び総合的な学習の時間の内容を精選することを通して、児童に向き合う時間を確保するとともに、職員の健康を維持する。	教育課題に適切に対応する学校体制を再構築するとともに、行事等の精選をし、児童に向き合う時間を確保する。 ・行事等の内容を精選し、行事に係る練習時間数を減少する。 ・総合的な学習の時間の内容を精選する。 ・各部が担当する行事を精選する。 ・関係機関・団体と連携する取組について、学校が担う業務を軽減する。 ・定時退校を実現する。 ・見直しを持った業務を行う。	○市の方針「勤務時間上限の目安時間」(上限の目安時間及び特例的な扱い)」に記載されている内容を達成する。 上限目安時間・45時間/月を超えない。・360時間/年を超えない。 特例的な扱い・720時間/年を超えない。・45時間/月を超える月は、1年間に6月まで。・連続する複数月のそれぞれの期間について、1カ月当たりの平均が80時間を超えない。 【評価時期】(9月末・1月末)	勤務時間外の在校時間 全教職員年間360時間以内、月45時間以内の割合	39%	100%	38%	38%	D	4月、5月、6月と78%の職員が時間外在校等時間の目標を達成できなかった。5月、6月は生徒指導事案の対応で時間外在校等時間が増加した。7月は学期末で、成績等々の事務処理が多かったが、方法を早めに周知し、職員がタイムマネジメントを計画的に行えるようにしたり、子どもの下校時刻を早期作業時間をしっかりと確保したこととで、目標値を達成している職員が増えた。	・全職員が心身ともに健康で職務を遂行できる環境で子供たちと向き合うことで教育効果があがる。そのために、個々が計画的に仕事ができるように行事等を早めに周知していく。 ・引き続き成績等の事務処理が重なる繁忙期には、児童の下校時刻を早める等、勤務時間内に作業等ができる時間を積極的に確保していく。 ・1週間で、全職員が計画的に早く帰宅することができるような体制を整えて、心身ともにリフレッシュする時間を増やしていく。	○	・定時退校日を設けて、割り切った帰宅するなどの学校全体の雰囲気づくりが必要だと思います。 ・様々な業務がある中で働き方改革の取組は大変だと思います。少しずつでも改善していけるように今後も様々な取り組みをされることを期待しています。	

研究	主体的に学び、自ら伸びるとともに伸びようとする児童の育成 ～「自己決定の場」と「問いの工夫」がある授業づくり～	連携教育	園・小・中連携教育で伸びる「大和っ子」の育成
----	--	------	------------------------

【自己評価 評価】
A:100≦(目標達成)
C:80≦(もう少し)≦80

B:80≦(ほぼ達成)≦100
D:(できていない)≦80

イ:自己評価は適正である。
ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分らない。